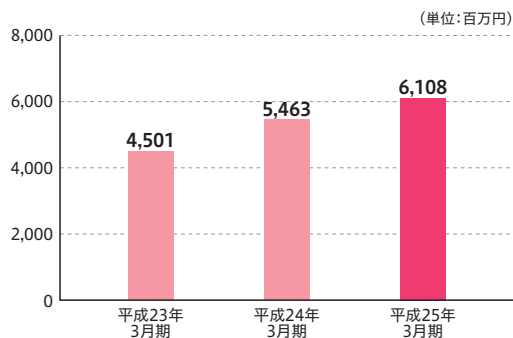


# 業績ハイライト(単体)

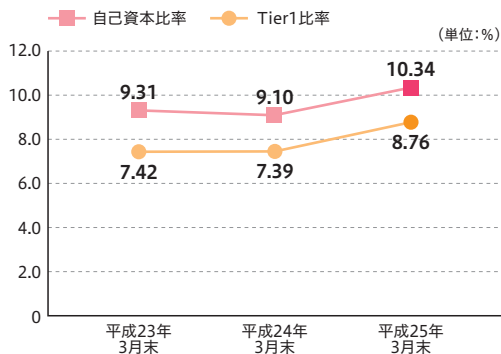
## コア業務純益の状況

銀行の本業の収益力を表すコア業務純益は、資金利益が減少したものの、物件費の減少等により、前年同期比6億44百万円増加の61億8百万円となりました。



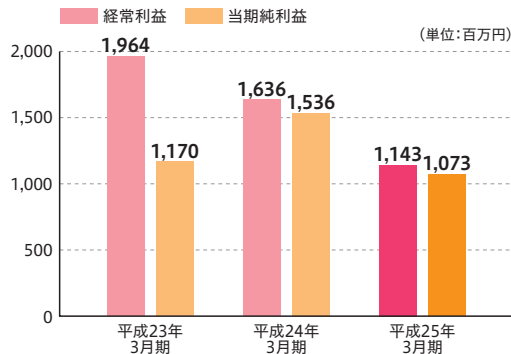
## 自己資本比率の状況

自己資本比率は、24年12月に震災特例の金融機能強化法に基づく資本増強を実施したことから、前年同期比1.24ポイント上昇の10.34%となりました。



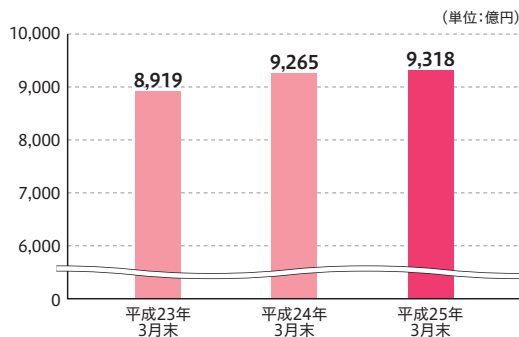
## 経常利益・当期純利益の状況

経常利益及び当期純利益は、事業再生専門子会社による積極的な企業支援に取り組み、子会社による個別貸倒引当金を前倒しで計上したため、それぞれ前年同期比4億92百万円減少の11億43百万円、前年同期比4億62百万円減少の10億73百万円となりました。



## 貸出金の状況

貸出金残高は、前年同期比52億73百万円増加の9,318億67百万円となりました。(事業再生専門子会社に移管しました貸出債権125億59百万円を考慮しますと、実質178億32百万円の増加となりました。)



### 用語解説

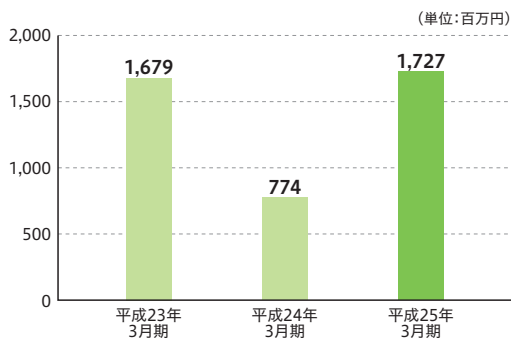
■ コア業務純益 「業務純益」から「一般貸倒引当金繰入額」と「国債等債券損益」を除いたものです。分かりやすく言えば、資金運用収益と調達費用の差額である資金運用収支益と、送金手数料等の手数料収支から、営業経費を引いた、いわゆる銀行本業部分の収支益のことを指します。



# 業績ハイライト(単体)

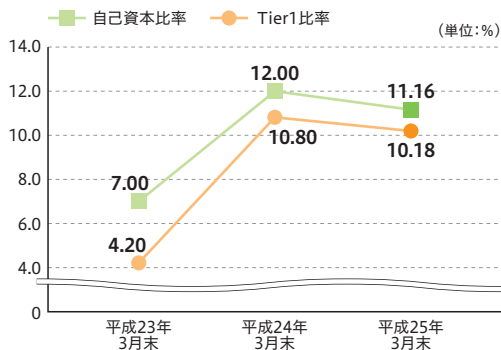
## コア業務純益の状況

銀行の本業の収益力を表すコア業務純益は、資金利益及び役員取引等利益が増加したことや物件費が減少したことなどから、前年同期比9億52百万円増加の17億27百万円となりました。



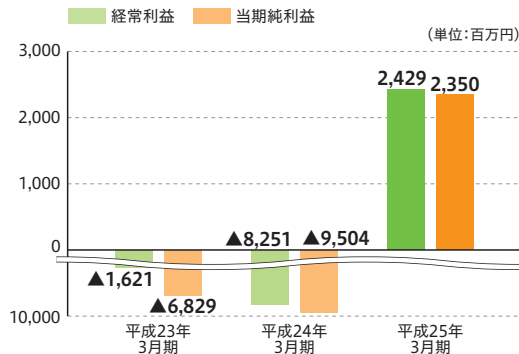
## 自己資本比率の状況

自己資本比率は、当期純利益23億50百万円の計上により自己資本額(分子)が増加した一方で、貸出金残高の増加に伴いリスクアセット(分母)が増加したことなどから、前年同期比0.84ポイント低下の11.16%となりました。



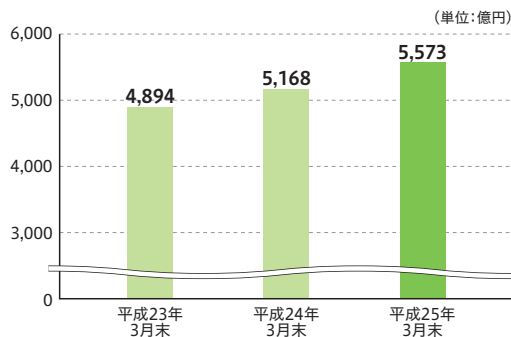
## 経常利益・当期純利益の状況

経常利益は、コア業務純益が増加したことや貸倒引当金戻入益21億30百万円を計上したことなどから、前年同期比106億81百万円増加の24億29百万円、当期純利益は、前年同期比118億55百万円増加の23億50百万円となりました。



## 貸出金の状況

貸出金残高は、震災復旧・復興に係る様々な資金需要に積極的に対応し、中小企業向け貸出残高が増加したことなどから、前年同期比404億71百万円増加の5,573億27百万円となりました。

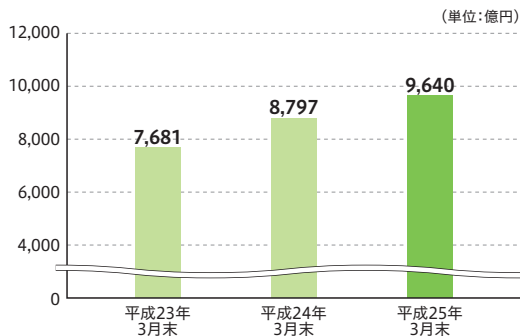


### 用語解説

■ コア業務純益 「業務純益」から「一般貸倒引当金繰入額」と「国債等債券損益」を除いたものです。分かりやすく言えば、資金運用収益と調達費用の差額である資金運用収支益と、送金手数料等の手数料収支から、営業経費を引いた、いわゆる銀行本業部分の収支益のことを指します。

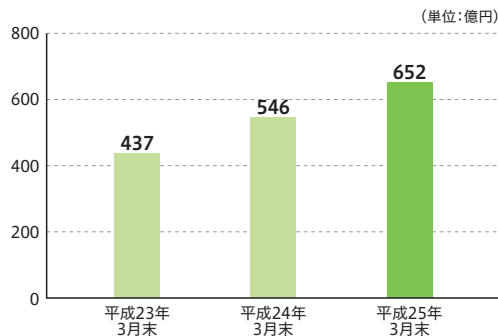
## 預金(譲渡性預金含む)の状況

預金残高は、被災者の住宅修繕など復興資金としての払出等により個人預金が減少しましたが、法人預金や公金預金が増加したことから、前年同期比843億3百万円増加の9,640億11百万円となりました。



## 預かり資産の状況

預かり資産残高は、営業店と資産運用サポートチームの販売強化により、生命保険残高が増加したことなどから、前年同期比106億37百万円増加の652億87百万円となりました。

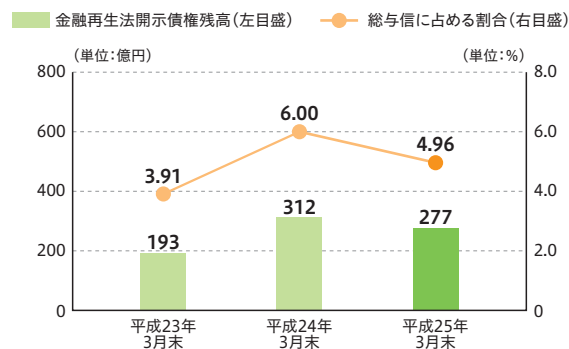


## 金融再生法開示債権の状況

平成25年3月末の金融再生法に基づく開示債権の残高は、前年同期比34億30百万円減少し、277億99百万円、総与信に占める割合は1.04ポイント低下の4.96%となりました。

今後も引き続き、お取引企業に対する財務内容改善等ノウハウの提供に係る経営支援、経営指導をこれまで以上に強化し、資産の健全化に努めてまいります。

## 金融再生法開示債権残高および総与信に占める割合



■ 経常利益 「業務純益」から「株式売買損益」や「個別貸倒引当金繰入額」などの臨時損益を加減した利益を指します。  
 ■ 当期純利益 「経常利益」に「特別利益」と「特別損失」、そして法人税等の税金を加減した利益を指します。

※金額は単位未満を切り捨てて表示しております。